

磐田武道協会

代表者 会長 松下 明

“武道とは?..” “真の武道とは?..” そんなテーマを追い掛けて、もう四十数年過ぎました。二十代で今の実践拳法に出会い、実際に突きを決め、蹴りを入れるという事が非常に衝撃的、かつ新鮮でした。

始めから“武道とは?..”などと考えていたわけではなく、強くなりたいたい一心でひたすらに稽古をしたのを覚えています。

近年は増えましたが、当時はフルコンタクトルールに対する理解度も低く、対外の試合も名古屋あたりまで行かないとできませんでした。

ですから大会も「東海地区選手権大会」を開催しても1回から20回くらいまで、他流派の参加はありませんでした。

そして二十年前に活動方針、指導方針に差異を生じ新組織を立ち上げましたが、やはり第1回目の大会の出場者は十四名(自道場のみ)でした。出場選手の多少を自慢する訳ではありませんが、回を重ねる毎に参加団体も増え、去年は二百名に迫る大会でした。

それでもまだ、一般的に武道、特にフルコンタクトに対する理解度は低く、「ウチの子は優しいから無理」とか、「だって野蛮じゃん」 etc…

“優しい..”って何ですか? テレビゲームをおとなしくやっているのが優しさですか?

“野蛮..”って何ですか? 少年野球でエラーした相手の選手を全員で野次るのが上品ですか? サッカーのオウンゴールの相手をハヤシたてるのは野蛮じゃないのですか?

自分の子供を試合に出したいために、監督・コーチに対して過剰なサービスの噂を聞きます。

話を戻します。練習生のお母さんによく聞かれます。

「先生 どうすればウチの子は強くなれますか?」

「ハイ。まず第一は大きな声で挨拶をする事。これで自分に自信がついてきます。第二に履物をキチッと揃える事。これで行動に責任を持つ事が出来ます。」こんな事からが修行の入り口です。

「次は先生の技を素直にまねて下さい。“学ぶ”の語源は“真似る..”ですよ(筆者自論)。」

小学校四年生の登校拒否の子供が磐田南高校に進学し、国立大学で外交官を目指して頑張っています。

中学も行かなかった不良少年が配管工になり、親方の片腕となって泥まるけの作業着で小説を借りに来ます。

“今こそ こんな時代だから 今こそ!! 真の武道を!!..”

毎週月曜日夜七時三十分から。大藤体育館。のぞいてみて下さい。